

平成26年度の主な取り組み



▲ことし10月、待望の「まち開き」を迎えた海老名駅西口地区

海老名駅西口地区の 公共施設整備

海老名駅西口地区の道路やプラムナード、西口中心広場の基盤整備などを、西口土地画整理組合と協働で進めました。



▲快適な歩行空間が実現

東西一体のまちづくりに寄与する歩行者ネットワーク施設として、駅間部の拡幅工事を実施したほか、西口部まで自由通路を延伸しました。

海老名駅自由通路 (駅間部・西口部)の整備

平成26年8月に完成、11月から指定管理者制度を導入し、民間のノウハウを生かした健康増進メニューの提供を始めました。



▲プールやジムで健康増進

えびな市民活動センター！ ビナスポの開館



▲愛称「えびりーぶ」は教育支援教室通級生が命名

平成26年12月に、教育支援センター「えびりーぶ」を開所。特別支援教育や不登校、いじめなどの児童生徒指導に総合的に対応しています。

教育支援センターの開所

災害発生時の安否確認を容易にするための「安否確認フラッグ」と、防災意識の向上を目的にした防災ガイドブックを全市帯に配布しました。



▲家族の無事を周囲に知らせる目印に

災害発生時の行動などを記載



3市消防指令センターの 運用に向けて



▲3市の住民約34万人の命や暮らしを守る司令塔

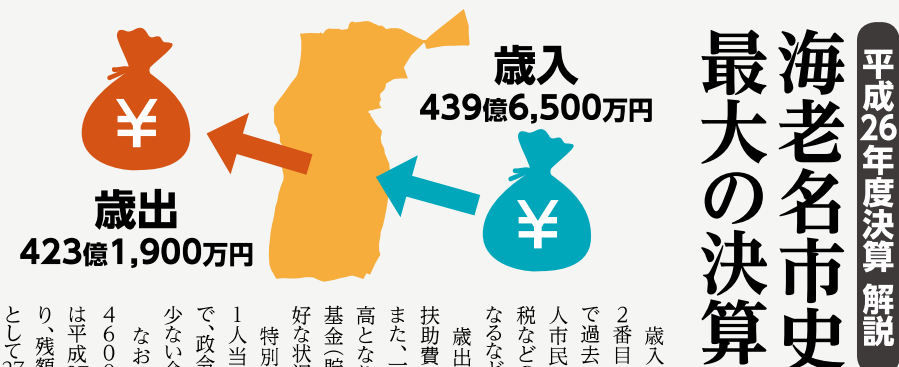
高機能消防指令システムなどの整備や、消防救急デジタル無線活動波などの整備を実施しました。



財政健全化法に基づき、市の財政状況に関して私たちの暮らしという健康診断を行っています。診断は「健全化判断比率」によって行い、市の5つのお財布の中身全てが判断材料になります。財政健全化法では「早期健全化基準」を超えると「経過観察」、「財政再生基準」を超えると「要治療」と判断されます。平成26年度の市の健全化判断比率は早期健全化基準を大きく下回り、診断の結果、健康状況は「良好」と判断されました。

健康診断 結果も良好

	海老名市の健全化判断比率	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	— (赤字なし)	12.26%	20.00%
連結実質赤字比率	— (赤字なし)	17.26%	30.00%
実質公債費比率	0.7%	25.0%	35.0%
将来負担比率	— (算定されません)	350.0%	—



歳入は439億6,500万円、過去2番目、歳出は423億1,900万円、過去最高となりました。市税は、個人市民税が減少したものの、固定資産税などの増加により3年連続の増加となるなど、回復傾向となっています。歳入は、義務的経費である人件費、扶助費・公債費が全て増加しています。また、一般会計での市債残高は過去最高となりましたが、市民1人当たりの基金(貯金)・市債(借金)の残高は、良好な状況を維持しています。特別会計分を含めた市債(借金)の1人当たりの残高は30万7,709円で、政令市を除く県内16市の中で最も少ない金額となる見込みです。なお、歳入歳出決算額の差額16億4,600万円のうち、8億5,000万円は平成27年度への継続事業の財源となり、残額の8億4,100万円は繰越金として27年度予算に収入しました。

平成26年度決算解説 海老名市史上 最大の決算